

タイワンナカボソタマムシ  
左: ♂(竹富島産) 右: ♀(石垣島産)

ごく最近、日本初記録種として秋山 (1975) により琉球列島の奄美大島・沖縄本島・石垣島における採集例が発表された種で、同文では奄美の1♀、沖縄の1♀、石垣の2♀♀がそれぞれ記録されているが、稀な種と思われるので筆者の手元の標本のデータを報告しておく。秋山氏の記録は4♀♀で、♂は未見ということなので、♂の写真を添える。♂は♀に比べ体が細く、♀の頭頂・前胸背・上翅肩部および会合線付近が強い赤銅光沢を帯びるのに対し、上記の2♂♂はまったく赤銅光沢がなく、すべて青味を帯びた黒色である。また、上翅中央～後半の白い波状紋は個体により多少変化するようである。竹富島からは今回が初記録。

貴重な標本を恵与された深町宗通、清野隆、川田一之の各氏、および最近の日本～台湾産 *Coraebus* についての知見を教えてくれた秋山黄洋氏、標本写真を撮って下さった松香宏隆氏に感謝したい。

(〒110 台東区台東2-29-6)

### 房総半島のカミキリ2種

中村 俊彦

今夏、千葉県夷隅郡御宿<sup>おんじゆく</sup>において下記2種のカミキリを採集した。いずれも比較的少なく、興味のある分布を示すので、ここに報告する。

#### 1. ヒメビロウドカミキリ

*Acalolepta degener* (BATES)

1♀, 15. VII. 1976

#### 2. ハチジョウウスアヤカミキリ

*Bumetopia japonica heiana* HAYASHI

1♀, 15. VII. 1976

1. は海岸近くの砂丘上を歩行していた個体で、その日

は風が強く、吹き飛ばされて砂上に落下したものであろう。

2. はやはり海岸近くのササ(アズアネザサ)の叩き網で採集されたもので、本種の房総半島での採集例は少ないものようであり、勝浦における1例(石田正明, 1972)がある。今後、ササ類の叩き網により容易に得られる種と思う。

(〒175 板橋区高島平2-28-1 704号室)

### 屋久島でアカネトラカミキリを採集

矢野 立志



アカネトラカミキリ *Brachyclytus singularis* KRAATZ は朝鮮・中支那・シベリアの他、日本では北海道・本州・四国・九州における分布が知られていたが、島嶼部からの記録はなかったようである。筆者は鹿児島県熊毛諸島屋久島において本種を採集しているので報告しておく。

1♀, 屋久島宮之浦,

22. XI. 1975

ブドウの枯蔓中で成虫越冬していた個体である。

(〒734 広島市皆実町1-18-40)

### 箱根仙石原でヒメビロウドカミキリを採集

小田 義広

ヒメビロウドカミキリ *Acalolepta degener* (BATES) は本州では栃木県下・東京都小仏峠・三浦半島・昇仙峡・岐阜県下などにおける記録が知られているが、稀な種で、分布も局所的なようである。筆者は神奈川県下で本種を採集しているので報告しておく。

1♂1♀, 神奈川県足柄下郡箱根仙石原,

15. VII. 1976, 小田義広採集

仙石原の湿原で、アザミの葉を後食に集まるアサカミキリを採集していたところ、シオンに似たキク科植物?の葉上に止っていたもの。採集時間は2頭共午後3時頃、曇天で時々日照のある天気であった。

(〒253-01 神奈川県高座郡寒川町倉見1765)

### アカムネハナカミキリを表日光高薙山<sup>たかなぎ</sup>で採集

森島 直哉

アカムネハナカミキリ *Macropidonia ruficollis* PIC

は非常に採集例の少ない種として知られているが、筆者の手元に1♂の標本があるので、データを書きとめておきたい。

1♂, 栃木県塩谷郡高雉山, 8. VII. 1964,

森島直哉採集

西沢金山跡から日光沢温泉へぬける道で採集したもので、高雉山の標高1,600~1,700m地点であった。ブナ林の中で花に飛来していた個体である。

(〒321-14 日光市花石町1823)

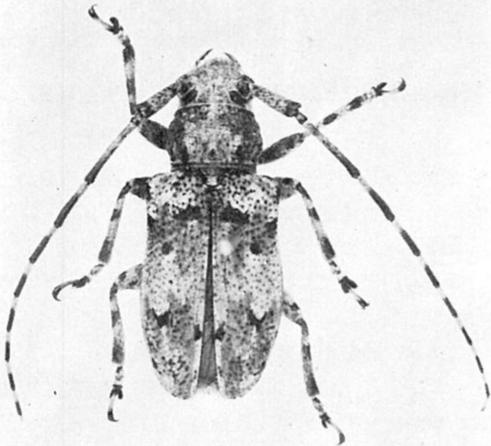
#### 沖縄本島産オキナワゴマフカミキリの採集例

森島 直哉

オキナワゴマフカミキリ *Mesosa (Perimesosa) pictipes* GRESSITT の沖縄本島産原亜種は、GRESSITT (1937)の原記載以来まったく採集されていないようだが、筆者は同島南部にて本種を採集しているので報告しておく。

1♀, 沖縄本島糸満市, 20. VII. 1964, 森島直哉採集

沖縄が日本に返還される以前の記録で、ラベルの地名は“沖縄”とのみ記入されている。詳しい採集地はよく覚えていないが、史跡巡りのバスに乗って南部の海岸を回っていた折に採集したもので、恐らく“健児之塔”か“姫百合の塔”かのどちらかであったと思う。生木の幹に止っていたものを採集した。



この個体は奄美大島産の *ssp. miyamotoi* と比較すると、上翅が短く丸味を帯びており、石垣島産の *ssp. yayeyamai* に似た体型をしているが、自毛が多く上翅斑紋も異なっている。

(〒321-14 日光市花石町1823)

#### ヒゲブトハナカミキリを

##### ミズメ伐採木中より採集

武智 昭一

ヒゲブトハナカミキリ *Pachypidonia bodemeyeri* PIC は「日本産カミキリの生態と分布一覧表」(草間, 1973)によれば、花上や飛翔中のもの、およびサクラの木に飛来したもの(九州)が採集されているとあるが、筆者はミズメ *Betula grossa* SIEB. et ZOC. の伐採木材中より本種2♂♂1♀を採集したので、その状況を報告しておく。

日 時: 1975年7月26日 午後5時40分頃。

採集地: 東京都奥多摩日原本谷の林道最奥の貯木場。  
(標高約1,000m)

天 候: にわか雨ののち、1時間ほど経過して日照あり。

材の状態: 2.5m くらいの高さに積まれた雑多な広葉樹伐採木の中の1本で、地表より1.2mの高さにあった。長さは約3m。直径45~50cmで、芯部は直径25cm くらいの空洞となっている。材部は堅く、樹皮はしっかりと材部についていた。

採集位置: 空洞の内側をのぞいたところ、切り口より10cm ほど内部の、ちょうど時計の5時の位置に1♂が頭部を出して脱出中であつた。さらにピンク色をした繊維状の木屑が露出しているところから孔道を追跡したところ、2ヵ所で蛹室中の成虫1♂1♀が得られた。各蛹室は接近しており、3個共直径10cm の範囲内にあった。蛹室の形状は長径40mm、幅12mm ほどの卵形で、空洞の表面と蛹室の間の厚さは2~3mm であつた。

空洞の状況: 切り口より40~50cm から奥は腐蝕して多孔質となった芯部が残っており、入口付近は表面の2~3cmをそのような多孔質の部分が覆っていたが、蛹室のあった付近は未腐蝕の堅い材部で、蛹室はこの堅い表面の下にあつた。

この採集を伝え聞いて、後から訪ずれた人達によってもやはり同じ木の空洞内で本種の成虫や成虫の破片が得られているようである。終りに、種々ご教示いただいた藤田宏氏に深謝する。

(〒197 福生市福生1530 加美平団地9-506)